

会 告

第 100 回 (秋季) 講演大会見学会・懇親会開催のお知らせ

本会は第 100 回秋季講演大会を昭和 55 年 10 月 18 日(土)、19 日(日)、20 日(月)の 3 日間九州大学工学部で開催いたしますが、これを機会に 10 月 18 日懇親会、19 日婦人見学会、21 日(火)見学会を下記により開催いたしますので、奮ってご参加下さいますようご案内いたします。

なお、講演大会の詳細ならびにジュニアパーティについては追ってお知らせいたします。

九州大学工学部：福岡市東区箱崎 6 丁目 10-1 Tel. (092)-641-1101

記

1. 見学会の申込みについて

期 日 昭和 55 年 10 月 21 日(火) 1 班～3 班 (コース詳細次ページ掲載)
参 加 費 1 班 4,000 円, 2 班 3,500 円, 3 班 3,500 円 (各班含昼食費)
申込締切 昭和 55 年 9 月 16 日(火)

見学会参加申し込み上の注意

1. 別紙申込書(213 ページ掲載)により 9 月 16 日までに必着するようお申込み下さい。
定員は各班とも 50 名といたしますが申込みが多数の場合は抽選により決定いたしますので、申込書には第 2 希望までご記入下さい。
2. 申込みと同時に参加費(第 1 希望班の該当参加費)をお払込み下さい。参加費の払込みのない申込みは受理いたしません。なお、会費にはバス代、昼食代を含みます。
3. 見学希望者が少ない場合、または見学先の都合により見学を中止する場合があります。
4. 見学申込みの取消しは 9 月 20 日までは返金いたしますが、それ以後の取消しは返金いたしかねます。
5. 見学班の決定通知は本会より 10 月 5 日ごろお知らせいたします。
6. 同業者の見学をお断りする場合がありますことを予めご承知おき下さい。
7. 定員は鉄鋼協会、金属学会両会の合計です。
◆ 婦人コース以外は工場内での写真撮影を禁止いたします。

2. 懇親会の申込みについて

講演大会に際し全国各地からお集りになる会員各位の親睦の場として、下記のごとく懇親会を開催いたします。会費などについてもより多くの方々にお気軽にご参加いただけるようにいたしました。

また、この機会に会員各位ご夫人同伴でご参加いただき、より明るい雰囲気での催しとしたいと思いますので、多数ご参加下さるようご案内申し上げます。

期 日 昭和 55 年 10 月 18 日(土) 18:00
会 場 福岡国際ホール(西日本新聞会館ビル 16 階)
福岡市中央区天神町 1-4-1 TEL (092)-712-8855
会 費 6,000 円(同伴のご夫人はご招待いたします)。
申込締切 昭和 55 年 9 月 27 日(土)
参 加 券 領収証とともに申込締切後お送りいたします。

3. 婦人見学会について

期 日 昭和 55 年 10 月 19 日(日)
コ ー ス 呼子・唐津城・博多人形 他
会 費 5,000 円(含昼食費)
申込締切 昭和 55 年 9 月 27 日(土)
参 加 券 領収証とともに申込締切後お送りいたします。

4. 申込方法

上記「申込み上の注意」をご覧のうえ、別添申込用紙に必要事項を記入し、参加費(現金書留)を添えお申込み下さい。会費の添付されない申込み、銀行振込ならびに郵便振替による申込みは受付いたしません。

なお、本大会参加者の宿泊については、東急観光(株)福岡営業所 (092-711-1101) でお世話しております。別紙案内をご覧のうえ、観光シーズンでもありますので、各自早目にお手配下さい。

5. 申 込 先

〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
日本鉄鋼協会講演大会係

注) 見学会、懇親会申込書は本誌会告(N213 ページ)に掲載いたしております。

注) 大会期間中の宿泊案内は本誌会告(次ページ)に掲載いたしております。

日本鉄鋼協会秋季大会見学会

工場見学：10月21日（火）

申込締切：9月16日（火）

班別 (定員)	見学～観光先	所在地	内 容	見学時間	集合時刻・場所 解散時刻・場所	備 考
1 (50名)	新日本製鐵(株) 八幡製鐵所	北九州市八幡東区 枝光 1-1-1	戸畑第一高炉工場 戸畑第一転炉工場 第二熱間圧延工場	9:20 ～10:50	集合 (8:45) 小倉駅北口 新幹線側	①参加費 4,000 円 (昼食代を含む) ②貸切バス利用 (鶴丸航空) ③昼食は萩レストショ ップ未益
	萩市内観光	山口県萩市	松陰神社萩焼窯元 明神池, 東光寺他	13:00 ～16:00	解散 (18:30) 小倉駅北口	
2 (50名)	新日本製鐵(株) 大分製鐵所	大分市大字 西ノ洲 1	第二高炉工場 連続熱間圧延工場	9:30 ～11:30	集合 (8:45) 大分駅前 解散 (17:00) 大分駅前	①参加費 3,500 円 (昼食代を含む) ②貸切バス利用 (大分バス) ③昼食は大飼ドライブ イン
	臼杵石仏観光	大分県臼杵市	風連鐘乳洞 臼杵石仏	13:00 ～16:00		
3 (50名)	三菱重工業(株) 長崎造船所	西彼杵郡香焼町 180	香焼工場	11:20 ～12:30	集合 (10:30) 長崎駅前 解散 (16:00) 長崎駅前	①参加費 3,500 円 (昼食代を含む) ②貸切バス利用 (長崎県営バス) ③昼食はシエフロンホ ール
	長崎市内観光	長崎県長崎市	大浦天主堂グラバ ー園・平和祈念像 国際文化会館	13:40 ～15:45		

婦人コース：10月19日（日）

申込締切：9月27日（土）

婦 人 コース (35名)	福岡市内・ 唐津観光	福岡県福岡市 佐賀県唐津市	呼子 唐津城 鏡山（虹の松原） 大濠公園 博多人形, 他	10:00 ～17:00	集合 (9:45) 博多駅筑紫口 新幹線側 都ホテル前 解散 (17:30) 博多駅	①参加費 5,000 円 (昼食代を含む) ②貸切バス利用 (西鉄バス) ③昼食は唐津
---------------------	---------------	------------------	---------------------------------------	-----------------	---	---

- (注) 1. 婦人コース以外は工場内での写真撮影をお断りいたします。
 2. 各班の定員は両学会合計 50 名とします。参加者が少ない場合、または都合により見学を中止することがあります。
 3. 見学会費にはバス代、昼食代等が含まれております。
 4. 同業者の見学をお断りする場合がありますことを予めご了承下さい。

秋 季 講 演 大 会 宿 泊 の ご 案 内

標記大会期間中の宿泊について下記の通り東急観光福岡営業所で宿泊の斡旋をすることになりましたので、ご希望者はお申込下さい。なお大会の開催される頃は観光シーズンのためお早目にお申込頂きますようお願いいたします。

- ・ **宿泊料金クラス**（ホテルは 1 泊朝食付，税，サービス料込み料金です）
 A クラス：利用ホテル；博多東急ホテルアネックス（市内中心部） 6,500 円（1 泊 1 人）
 B クラス：利用ホテル；ホテルリッチ博多（博多駅近く） 5,000 円（1 泊 1 人）
 法華クラブ福岡店新館
- ・ **申込み方法**：下記申込書式例により宿泊予納金 1 人 1 泊につき 3,000 円を添え，現金書留にてお申込み下さい。
 ・ グループでホテルに宿泊をご希望される場合は，宿泊日ごとに宿泊名簿を同封下さい。
 ・ 申込書到着後宿泊券をお送りしますので，当日必ずご持参下さい。宿泊料金の差額についてはホテルにてご精算下さい。
- ・ **申込み締切**：9月30日（火）なお，お申込み後の取消，変更は 10 月 7 日（火）までにご連絡のあるものについては宿泊予納金を返金いたしますが，それ以後は返金いたしませんのでご了承下さい。
- ・ **申 込 み 先**：〒810 福岡市中央区天神 1 丁目 15 番 3 号（福岡東急観光ビル 2 階）
 東急観光(株)福岡営業所 Tel. 092 (711) 1101 (代)
 日本鉄鋼協会・日本金属学会 秋季大会宿泊係

(申込書式例)

日本鉄鋼協会・日本金属学会 秋季講演大会宿泊申込書

氏 名	連絡先〒	TEL
(宿泊券送付先)	勤務先	TEL
氏 名 (ふりがな)	希望クラス	宿 泊 月 日
		10/17 10/18 10/19 10/20
	A・B	
(宿泊予納金)		3,000 円 × 泊 × 名
		= 送金合計 円

.....切.....取.....り.....

昭和 55 年度秋季講演大会参加申込書

見 学 会	希望順位	班 別	送 金 額
		第1班：新日本製鐵(株)八幡製鐵所，萩市内観光	4,000 円
		第2班：新日本製鐵(株)大分製鐵所，臼杵石仏観光	3,500 円
		第3班：三菱重工業(株)長崎造船所，長崎市内観光	3,500 円
	婦人見学会 (出席者氏名)		5,000 円
懇 親 会 出 欠		ご夫人の出欠(招待) 出 欠 ご夫人名	6,000 円
会員資格		員	送金額合計 円
通 信 先 (〒)			
氏 名			
勤務先，職名			
領収書送付先 (通信先と異なる場合)			

昭和 55 年 鉄 鋼 協 会 行 事 案 内

行 事	期 日	場 所
(講演大会) 第100回秋季講演大会 〃 見学会 第101回春季講演大会	昭和55年10月18日(土)～20日(月) 〃 10月21日(火) 昭和56年4月2日(木)～4日(土)	九州大学 東京大学
(西山記念技術講座) 第69・70回「ブルーム，ビレット・連鑄技術の最近の進歩」	昭和55年9月2日(火)，3日(水) 〃 9月18日(木)，19日(金)	東京大手町・農協ホール 大阪科学技術センター
第71回「80年代における日本鉄鋼業」 第72・73回「特殊精錬技術の最近の進歩」	昭和55年12月16日(火)，17日(水) 昭和56年2月，3月	東京大手町・農協ホール 東京，大阪
(国際会議) ・ 圧延に関する国際会議 (板圧延)	昭和55年9月29日(月)～ 10月4日(土)	東京大手町・経団連会館
第4回日独セミナー	昭和55年11月12日(水)，13日(木)	東京大手町・経団連会館

昭和 56 年秋季 (第 102 回) 講演大会討論会

討論講演募集のお知らせ

昭和 56 年秋季 (第 102 回) 講演大会に開催されます討論会講演を下記により募集いたしますので奮ってご応募下さるようご案内いたします。

1. 討論会テーマ

1) 高炉における計測技術 座長 研野 雄二

高炉の計測技術は、物質収支・熱収支の情報を正確に把握するという従来の段階から、解体調査における融着帯の知見等を基に、高炉プロセスそのものをより精度高く探求する方向に進展し、生産の安定化・燃料比レベルの大幅な低減等大きな成果をあげている。またコンピュータ等情報処理技術の目覚ましい進歩と相まって、プロセス制御まで結びつきたいいくつかの実用モデルが報告されている。

本討論会においては、現在の技術開発の状況および将来の高炉計測技術・プロセス制御技術のあり方、またそれに対応する新検出端についての討議をお願いしたい。

2) 連铸時の酸化物系非金属介在物の挙動 座長 宮下 芳雄, 副座長 大橋 徹郎

連铸スラブおよびブルームの高級鋼化 (ラインパイプ, D I 缶など)、鋼種拡大 (弱脱酸鋼など) の過程で問題になる介在物の実体 (大きさ, 組成, 分布状況) をまず確認したい。ついで出鋼から取鍋精錬を経て連铸にいたるプロセスで上記介在物の生成機構に言及し、その低減対策をマシンのタイプを含めた設備面および各種操業面より討論したい。介在物の同定法を含む基礎検討から現場の経験まで幅広い範囲で積極的な発表をお願いしたい。

3) 大型形鋼への連铸素材の活用 座長 柳沢 忠昭

大型形鋼の素材製造プロセスにおいて省資源, 省エネルギー, 高品質化のために、連铸素材の使用比率の向上が強く進められ、顕著な効果を発揮している。ところで、大型形鋼の製造においては素材として鋼塊製ビームブランクを使用することが多く、連铸化比率の向上には、連続铸造技術のみならず、圧延技術上の課題も多い。そこで、大型形鋼への連铸素材の活用技術上の諸問題とその対策について討議し、今後の動向を探索し、将来への指針の一助とする。

4) 低強度高靱性鋼の破壊靱性 座長 中村 正久, 副座長 布村 成具

原子炉圧力容器をはじめ多くの構造物、装置を対象とした鋼材の破壊靱性値として J_{Ic} 試験が注目されている。試験方法としても、R 曲線法、フラクトグラフィ法、電位差法、A E 法、超音波探傷法などが提案されており、これらの方法相互の関係、金属組織、溶接熱影響部、応力除去焼なましおよび長時間加熱脆化などの種々の金属組織の変化に基づく安全性評価など広い視野からの発表と討論を期待する。

5) 鋼の高温低サイクル疲労 座長 金尾 正雄

原子炉、火力発電、化学工業などにおける各種高温機器は安全性の追求と最適設計が強く要求されている。このため、高温機器用材料の高温低サイクル疲労も重要な問題となり、各方面で活発な研究が行われている。

そこで、鋼 (超合金を含む) の高温低サイクル疲労に及ぼす材質、温度、時間、環境等諸因子の影響、損傷過程 (組織変化、き裂発生と伝ば等)、寿命推定などに関連した多方面からの発表と活発な討論を期待する。

2. 申込締切日 昭和 56 年 2 月 13 日 (金)

3. 申込方法 1 号会告末に綴込みの申込用紙に必要事項ならびに申込書裏面に 400 字程度の講演のアブストラクトをお書きのうえお申し込み下さい。

4. 討論講演の採否 討論講演としての採否は、前記ご提出のアブストラクトにより検討のうえ決めさせていただきますので、あらかじめお含みおき下さい。

5. 講演前刷 昭和 56 年 5 月 15 日 (金)

原稿締切日 討論講演として採用された方は、本会所定のオフセット原稿用紙 4 枚以内 (表, 図, 写真を含め 1 ページ 6,700 字) に黒インクまたは墨をもちいて楷書で明りようにお書きのうえ、ご提出下さい。

6. 講演テーマ・講演者の発表 「鉄と鋼」第 67 年第 8 号 (昭和 56 年 7 月号) にて発表いたします。

7. 講演内容の発表 「鉄と鋼」第 67 年第 9 号 (8 月号) に講演内容を掲載いたします。

8. 討論質問の公募締切日 昭和 56 年 9 月末日

前記 9 号掲載の講演内容をご覧のうえ、質問対象講演を明記のうえ、本会編集課宛ご送付下さるようお願いいたします。

申込先: 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階

日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021 (代)

第 69・70 回西山記念技術講座開催のお知らせ

—— ブルーム・ピレット連続铸造技術の最近の進歩 ——

主催 日本鉄鋼協会

第 69・70 回西山記念技術講座を下記のとおり開催いたしますので多数ご来聴下さいませようご案内いたします。

I 期 日 第 69 回 昭和 55 年 9 月 2 日(火), 3 日(水)

東京 農協ホール (千代田区大手町 1-8-3 農協ビル 9 階)

第 70 回 昭和 55 年 9 月 18 日(木), 19 日(金)

大阪 科学技術センター大ホール (大阪市西区靱本町 1-8-4)

II 演題ならびに講師

第 1 日 9:30~10:30 総 論

新日本製鉄(株)取締役 大分製鉄所副所長

日本鉄鋼協会製鋼部会長 山本 全作

10:40~12:10 ブルーム・ピレット連铸機の設備と操業

(株)神戸製鋼所神戸製鉄所製鋼部長 大西 稔泰

13:00~14:30 ビームブランク铸片の連続铸造

川崎製鉄(株)水島製鉄所製鋼部主査 大森 尚

14:40~16:10 シームレスパイプ用铸片の連続铸造

日本鋼管(株)京浜製鉄所製鋼部長 楯 昌久

第 2 日 9:30~11:00 線材用铸片の連続铸造

住友金属工業(株)小倉製鉄所製鋼部長 中谷 元彦

11:10~12:40 条材用铸片の連続铸造

新日本製鉄(株)室蘭製鉄所技術研究室長 伊藤 幸良

13:30~15:10 ステンレス鋼および耐熱鋼のブルーム・ピレットの連続铸造

大平洋金属(株)八戸工場製鋼課長 山田 桂三

15:10~16:40 特殊連铸機について

(株)日立製作所日立工場機械設計部主任技師 木村 智明

III 講演内容

1. 総 論 山本 全作

全国粗鋼生産量の過半を占めるにいたつた連铸処理鋼と、その中におけるブルーム・ピレット用連铸の位置づけ・特徴を概括するとともに、設備・操業・品質等の当面の動向・課題について総括的に述べる。

2. ブルーム、ピレット連铸機の設備と操業 大西 稔泰

ブルームおよびピレット連铸機に関して、連铸工場・設備の配置、主要諸設備のそれぞれの解説と近年における改善内容、各種連铸設備型式と型式選択の観点について述べる。さらに、連铸機に供給される溶鋼の事前処理をふくめ铸片品質の改善、生産性向上のための計測・制御、自動化技術および耐火物、電磁攪拌技術についても、連铸の操業と関連して論説する。その他、特殊連铸機についても簡単に述べる。

3. ビームブランク铸片の連続铸造 大森 尚

ビームブランク連铸のニーズと、その歴史について触れ、日本および世界のビームブランク連铸機を概観する。ビームブランク連铸機の設備上の特徴について、タンディッシュおよび、モールドから、ガス切断機までを、ブルーム連铸機と比較し、さらに操業および铸片品質の特徴と、その改善状況を示し、铸造鋼種の拡大について述べる。最後に連铸製ビームブランクの経済性と利用圧延技術を述べ、ビームブランク連铸の今後を展望する。

4. シームレスパイプ用铸片の連続铸造 楯 昌久

シームレスパイプ用ピレットに関する一般的特性と連铸化の背景について検討し、シームレス用素材の連铸に対する考え方を述べる。さらにシームレスパイプ用素材に関する連铸の最近の進歩について、(1)生産性の改善、(2)品質の改善、(3)省資源、省エネルギー技術、(4)自動化、省力化技術、(5)耐火物、(6)溶鋼予備処理技術、(7)ピレット精整などの関点から記述すると共に、今後の動向について展望する。

5. 線材用铸片の連続铸造 中谷 元彦

加工技術の高度化にともない、線材の用途は多岐にわたるとともに、その品質要求もますます厳しくなっている。冷鍛材、タイヤコード用線材等はその好例である。

本稿では線材および炭素鋼小棒を対象としているが、本来最初の C C 化の対象であつたこの分野でも近年とくに高級鋼への適用拡大が、急ピッチで進んでいる。それは C C 材の品質が良好で、かつ安定していることによるが、その C C 化の背景と現状について概説する。

6. 条材用铸片の連続铸造 伊藤 幸良

条鋼製品の内、各種形鋼、鋼矢板、一般棒鋼など高度な品質を要求されない材料は、早くから連铸製造によつて製造されていたが、特殊鋼棒鋼、軌条などの品質要求レベルの高い材料の連铸化は遅れていた。しかし、最近取鍋精錬をはじめとした清浄鋼製造技術、連铸における偏析改善技術などの確立により、自動車用高級棒鋼の連铸化が急速に進み、鋼塊法以上の品質レベルが達成されている。軌条についても連铸化が着々と進められている。本講では高級条

鋼の連鑄について、品質面を中心に最近の技術を展望する。

7. ステンレス鋼および耐熱鋼のブルーム、ビレットの連続鑄造 山田 桂三

ステンレス鋼および耐熱鋼のブルーム・ビレットの連続鑄造技術として、現在各社で開発されている無酸化鑄造および電磁攪拌を中心に説明する。さらにこれら鋼種の代表として、303 (快削ステンレス鋼)、310 (オーステナイト単相鋼)、321 (含 Ti ステンレス鋼)、420 (マルテンサイトステンレス鋼) XM-7 (含 Cu ステンレス鋼)、鉄-Ni 合金 (57%Ni 合金) 等について連続鑄造を行う場合の基本的問題点、連鑄片に発生する欠陥例および現状の連続鑄造法等について説明するとともに、今後の展望についても言及する。

8. 特殊連鑄機について 木村 智明

最近、鑄造輪とベルトで鑄型を構成する同期回転式連鑄法、あるいは鑄型を水平に配置する水平連鑄法等により鋼ビレットを製造する技術が試験的内至は実機設備により確認された。ここではこれらの連鑄法の設備構成・操業結果等について説明する。また高速鑄造が可能な同期式回転連鑄方式については、省エネルギーおよび歩留り向上を目的とする連鑄機と圧延機の直結方式の可能性について検討した結果を紹介する。

IV 聴講無料 (事前の申込みは必要ありません)

V テキスト代 4,500 円

VI 問合先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021

「鉄 と 鋼」 特集号原稿募集案内

テーマ：鋼の連続鑄造の進歩

原稿締切日 昭和 55 年 10 月 20 日 (木)

昭和 56 年 6 月号 (第 67 年第 7 号) に鋼の連続鑄造技術の特集号を企画しております。前回の連鑄特集号 (1974 年 6 月) 発刊よりはや 7 年が経過し、その間我が国の鋼の連鑄化率は飛躍的に増大しました。これに呼応して鋼の凝固理論の進展はもとより、操業の自動化鑄片品質の向上、生産性の向上などに関する多種多様の技術が開発され実用化されて多大の成果をえてまいりました。今回これら鋼の連続鑄造に関連する諸技術の発展をまとめるため“鋼の連続鑄造技術の進歩”を主題に諸兄の原稿を募集いたします。奮って御応募ください。

記

1. テー マ 鋼の連続鑄造の進歩
2. 原稿締切日 昭和 55 年 10 月 20 日 (木)
3. 発 行 鉄と鋼、第 67 年 7 号 (昭和 56 年 6 月号)
4. 原 稿 枚 数 表、図、写真を含めて所定の原稿用紙
 - 1) 論文 50 枚以内 (刷上り 10 ページ以内)
 - 2) 技術報告 35 枚以内 (刷上り 7 ページ以内)
 - 3) 原稿は本会投稿規定に基づいて執筆下さい。
 - 4) 投稿された論文は編集委員会において審査されます。
5. 問合せ・原稿送付先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 F
(社)日本鉄鋼協会編集課特集号係 電話 03-279-6021

(注) 投稿時、原稿表紙に「製鋼特集号」と朱書して下さい。

第 71 回西山記念技術講座開催のお知らせ

—— 80 年代における日本鉄鋼業 ——

主催 日 本 鉄 鋼 協 会

第 71 回西山記念技術講座を下記のとおり開催いたしますので多数ご来聴下さいますようお願いいたします。

I 期 日 昭和 55 年 12 月 16 日(火), 17 日(水)

東京 農協ホール (千代田区大手町 1-8-3 農協ビル 9 階 TEL 03-279-0311)

II 演題ならびに講師

第 1 日	1.	9:30~10:40	80年代鉄鋼業の展望	日本鋼管(株)常務取締役技術開発本部長	白松 爾郎
	2.	10:50~12:00	産業界における鉄鋼業の役割	日本興業銀行産業調査部長	奥村 有敬
	3.	13:00~14:30	製鉄用エネルギーの将来	住友金属工業(株)エネルギー管理室長	山本 哲也
	4.	14:40~16:10	製鉄用資源の将来	新日本製鉄(株)鉱石部長	今井 敬
第 2 日	5.	9:30~11:00	製錬技術の将来	川崎製鉄(株)技術研究所	岡部 俠児
	6.	11:10~12:40	加工技術の将来	大阪大学工学部教授	加藤 健三
	7.	13:30~15:00	直接製鉄法の将来	(株)神戸製鋼所開発企画部次長	西田礼次郎
	8.	15:10~16:40	特殊鋼業の将来	大同特殊鋼(株)常務取締役	藤原 達雄

III 講演内容

1. 80年代鉄鋼業の展望 白松 爾郎

80年代における世界鉄鋼業の趨勢およびそのなかにおける日本鉄鋼業の位置づけについて考察する。

次いで、周辺状況の動向とその技術対応、すなわち、エネルギー、資源の動向とそれに対応する製鉄プロセスの動向あるいは、製品使用分野のニーズ動向に対応する新製品開発の動向等について述べる。

最後に、これ等技術開発の基盤となる今後の研究開発について、日本鉄鋼業の役割およびその体制、方向について論ずる。

2. 産業界における鉄鋼業の役割 奥村 有敬

わが国鉄鋼業は、卓越した生産プロセスとそれに基づく圧倒的な国際競争力を背景に、いま世界の鉄鋼供給基地ともいふべき立場にあるとともに、わが国の国民経済への貢献には極めて大きなものがある。第 71 回講座では、このようなわが国鉄鋼業が戦後の国民経済に果たしてきた役割をあと付け、さらに 80 年代のわが国産業界を巡る環境を展望することにより、そこにおける鉄鋼業の新たな役割について一考察を試みたい。

3. 製鉄用エネルギーの将来 山本 哲也

製鉄用のエネルギーは、大別すると石炭系、石油系、電力系に分けられるが、第 1 次オイルショックを契機として、石油系燃料の大幅削減に努力してきた。その努力の跡と、オイルレス製鉄所実現を目指した。今後の省エネルギー対策の限界と、その時のエネルギーバランスを、モデル製鉄所を想定して算出してみた。その結果を紹介したい。

4. 製鉄用資源の将来 今井 敬

わが国は、鉄鋼生産に必要な不可欠な主原料たる鉄鉱石のほとんどを海外に依存している。今回は、この鉄鉱石を中心とし、過去の日本鉄鋼業の発展との関連における発展経緯をのべ、今後、中長期的にみた場合の各国における鉄鉱石の賦存(産出)状況が、量的、質的にどのように変化していくのか、さらに使用する側からみた場合、これに、いかに対応していく必要があるかについてのべてみたい。

5. 製錬技術の将来 岡部 俠児

鉄鋼業における製錬技術の演ずる役割はますます重要になる。日本の全産業の消費エネルギーの 1/4 に達する鉄鋼業の中で乾溜・還元・溶解・精錬の工程は、製鉄所のエネルギー消費形態を決定する。次に産業基礎素材としてより安価でかつ信頼性の高い製品の生産と、用途に合致した高度な性質の製品の生産という要求にいかに対応するかが高炉・転炉法を軸にした 80 年代の課題となる。

6. 加工技術の将来 加藤 健三 (講演内容は追って掲載いたします)

7. 直接製鉄法の将来 西田礼次郎 ()

8. 特殊鋼業の将来 藤原 達雄

クオリティー・スチールの時代と呼ばれるほどに、特殊鋼に対する諸要請が増してきた。

航空機産業やエネルギー開発のための高級鋼に、その好例を見ることができる。

一方、量産鋼に対する品質特性値の向上、低廉化などに関する要求も一段と強まってきた。

このような事情をふまえて、特殊鋼の生産推移、生産のためのエネルギー消費、還元鉄利用の問題、製造技術の進歩、需要産業との関連などについて 80 年代の展望を述べる。

IV 聴講無料 (事前の申込みは必要ありません)

V テキスト代 4,500 円

VI 問 合 先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021

日本学術会議会員候補者推薦について

来る 11 月 25 日 (投票締切日) に行なわれる日本学術会議第 12 期会員選挙の会員候補として本会は理事会の議を経て下記の方々を推薦することを決定いたしましたのでお知らせいたします。

記

全国区第 5 部 (金属工学) 推薦候補者

新日本製鉄株式会社取締役八幡製鉄所副所長 甲 斐 幹君
川崎製鉄株式会社常勤顧問 三本木 貢治君

関 西 支 部

湯川記念講演会開催案内

湯川記念講演会を下記の通り実施致します。

記

日 時 昭和 55 年 9 月 12 日 (金) 午後 13:00~16:00

場 所 新住友ビル

大阪市東区北浜 5 丁目 15 06-220-9469

講師並に講演題目

1. 溶接材料および自動溶接の現状
(株)神戸製鋼所常務取締役技術開発本部長
中央研究所浅田基礎研究所々長
工博 有川 正康君
2. 溶接構造物の品質保証と鋼材の選択
科学技術庁金属材料技術研究所
溶接研究部長 工博 稲垣 道夫君

東 海 支 部

見学会開催案内

当支部では、行事の一環として、下記により見学会を開催いたしますので奮って御参加下さいますよう御案内申し上げます。

記

日 時 昭和55年11月12日 (水) 8:00~17:00

場 所 1. 日本電装株式会社 安城工場

2. 中央発条株式会社 碧南工場

会 費 1,000 円 (申込時現金書留にてお支払い下さい)

集合場所 名古屋市中区栄 テレビ塔下 8:00 集合

申込方法 10月18日 (土) までに、B 5 版用紙に勤務先、役職名、氏名を明記のうえ、会費を添えて下記支部宛お申し込み下さい。定員になり次第締切らせていただきます。

注 意 1. 同業者は御遠慮下さい。
2. 申し込みに際しては、定員の関係上電話にて確認のうえお申し込み下さい。

〒 464 名古屋市千種区不老町

名古屋大学工学部金属・鉄鋼工学教室内

日本鉄鋼協会東海支部 (052) 781-5111 内線 3372

相変態と析出セミナー開催案内

主催：日本金属学会 協賛：日本鉄鋼協会、ほか

日 時 昭和55年11月7日 (金), 8日 (土)

場 所 社会文化会館 (東京都千代田区永田町 1-8-1)

電話 03-580-1171

I 相変態の基礎—やさしい解説

統計現象とゆらぎ

京都大学基礎物理学研究所教授 久保 亮五

格子欠陥 東京大学工学部教授 堂山 昌男

拡 散 東北大学工学部教授 平野 賢一

熱弾性マルテンサイト変態と形状記憶効果

甲南大学理学部教授 中西 典彦

II 析出とスピノーダル分解

G・P・ゾーン 京都大学工学部教授 村上陽太郎

スピノーダル分解

名古屋工業大学教授 宮崎 亨

III 鉄鋼における変態と析出

鋼のマルテンサイト変態

大阪大学名誉教授 西山 善次

鋼の相変態における加工の役割

川崎製鉄技研水島研 田中 智夫

鋼の拡散型相変態と炭窒化物の析出

住友金属工業中央技研 大森 靖也

マルエージング鋼における相変態、

析出と機械的性質

(株)神戸製鋼所中央研究所研究員 芦田 喜郎

鋼の相変態と脆性

日本鋼管(株)技術研究所福山研究所

鋼材研究室次長

市之瀬弘之

聴講料 (テキスト代を含む)

会 員 (主催協賛学協会) 18,000円

非会員 30,000円

定 員 150 名

問合申込先 980 仙台市荒巻字青葉

日本金属学会 電話 0222-23-3685

第 21 回高圧討論会

(関連学協会共催)

日 時 10月15日(水)~17日(金)

会 場 野口英世記念会館(東京都新宿区大京町26番地) 国鉄:信濃町駅から10分,千駄ヶ谷駅から7分,地下鉄:四谷3丁目から15分,バス停:四谷4丁目から5分

講演発表

合成,物性に関するもの	30件
装置に関するもの	9件
固体物性に関するもの	28件
衝撃波に関するもの	16件
流体物性に関するもの	21件
固体反応に関するもの	7件
流体反応に関するもの	9件

特別講演

「インターカレーションによる合成金属と

その物性」 田沼 静一

「極限問題—超高圧力を中心として—」 斎藤 進六

参加登録締切 9月13日(土)

参加費 一般 4,000円, 学生 3,000円(要旨集・送料を含む) 要旨集のみ 2000円, (送料 200 円別)

懇親会費 一般 3,500円 学生 3,000円

申込問合先 〒106 東京都港区六本木 7-22-1

東京大学物性研究所 秋本研究室内

第21回 高圧討論会準備委員会

(電話 (03) 402-6231 内線 678 (秋本))

IFAC Workshop Systems Engineering Applications to Industrial Energy Generation and Process

期 日: 1980 年 10 月 23, 24 日

場 所: Houston, U.S.A.

問い合わせ: C. Douglas Hetrick

Instrument Society of America

P. O. Box 12277

Research Triangle Park, NC 27709
U.S.A.

2nd IFAC Workshop on Distributed Computer Control Systems

期 日: 1980 年 9 月 29 日~10 月 1 日

場 所: Ste-Adèle, Canada

問い合わせ: IFAC DCCS Workshop Chairman

Dr. R. W. Gellie

National Research Council, M-2

Ottawa, Ontario

KIAOR 6

CANADA

第 7 回 Chemical Abstracts 利用講習会と第 4 回 オンライン化合物検索講習会の開催について

化学情報協会では本会ほかの協賛の下に標記 2 つの講習会を開催することとなりました。

第 7 回 Chemical Abstracts 利用講習会

日 時 昭和55年 9 月 25 日 (木) 9~16 時

場 所 学会センター

第 4 回 オンライン化合物検索講習会

日 時 昭和55年 9 月 24 日 (水) 10~16 時

場 所 学会センター

問合, 申込先 〒113 文京区弥生 2-4-16

学会センタービル 化学情報協会

(電話 03-816-8462)

Third IFAC Conference on System approach for development

期 日: 1980 年 11 月 24~27 日

場 所: Rabat, Morocco

問い合わせ: Professor Mohamed NAJIM

IFAC Conference

Faculté des Sciences

B. P. 1014 RABAT-MOROCCO

6th IFAC/IFIP International Conference on Digital Computer Applications to Process Control

期 日: 1980 年 10 月 14~17 日

場 所: Dusseldorf, Germany

問い合わせ: IFAC/IFIP 1980-Computer Applica-

tions c/o VDI/VDE-Gesellschaft

Mess-und Regelungstechnik (GMR)

P. O. B. 1139

D-4000 Dusseldorf 1

GERMANY

XXIV. International Colloquium on Refractories

1. 期 日 1981 年 8 月 24, 25 日

2. 場 所 Aachen, Germany

3. 共 催 VDEh ほか 2 団体

4. テーマ "Refractories for industrial furnaces and their energy saving application"

5. アブストラクト締切 1981 年 1 月 15 日

標記会議に関するお問い合わせは, 直接下記までお問い合わせ下さい。

Institut für Gesteinshüttenkunde

der RWTH Aachen

Mauerstraße 5

D-5100 Aachen

GERMANY

International Symposium on Modern Development in Steelmaking

1. 共 催 The Indian Institute of Metals
The National Metallurgical Laboratory, 他
2. 期 日 1981 年 2 月 16~18 日
3. 場 所 Jamshedpur, India
4. 内 容
 - 1) Theretical Aspects of Steelmaking
 - 2) Design and Project Engineering
 - 3) Raw Materials
 - 4) Refractories
 - 5) Operational Aspects of Pneumatic Processes
 - 6) Operational Aspects of Other Processes
 - 7) Ladle Metallurgy
 - 8) De-oxidation and Ingot Making

以上の 8 つのセッションがあり, Key-note paper と Invited paper によつて運営されます。詳細は直接下記宛にお願いいたします。

Symposium Central Secretariat
National Metallurgical Laboratory
JAMSHEDPUR-831 007
INDIA

Tenth Anniversary of the SEAIISI Japan Conference-Tokyo-spring 1981 "Productivity and Maintenance"

1. 期 間: 1981 年 3 月 16~20 日
2. 内 容:
 - 1) Problems and New Technology for Improving Productivity
 - 2) Installation of Automatic Machine and Computer
 - 3) Maintenance Technology
 - 4) Organization for the Maintenance

3. 申込締切:

Title/Synopsis [200 words] 1980 年 9 月 30 日
Paper 1980 年 11 月 30 日

詳細は下記宛直接お問合せ下さい。

The Executive Consultant
South East Asia Iron & Steel Institute
Tower 1003, DBS Building 6, Shenton Way,
Singapore 0106
Telephone 2206418 (2 lines)
Telex RS 21922
Cable IANSTEL

ILAFA (The Instituto Latinoamericano del Fireiro y el Acero)

では 1981 年に次の会議を催します。

- 1) ILAFA-ENERGY Congress, June, Rio de Janeiro (Bragil)
- 2) ILAFA-22 (Latin American Iron and Steel Congress), September 21-23, Buenos Aires (Argentina)
- 3) ILAFA Congress on CONTINUOUS CASTING AND LADLE METALLURGY, November 8-11, Mexico City (Mexico)

プログラムの詳細及び参加申込み要領につきましては直接下記宛お問い合わせ下さい。

ILAFA'S General Secretariat
P.O. Box 16065, Santiago 9, Chile

Heat Treatment 1981

1. 期 日 1981 年 9 月 15 日~16 日
2. 場 所 University of Aston in Birmingham, England
3. 主 催 The Metals Society
International Conference on Mechanical Behaviour and Nuclear Applications of Stainless Steel at Elevated Temperatures

1. 期 日 1981 年 5 月 20~22 日

2. 場 所 Varese, Italy

3. 共 催 The Metals Society, 他

標記 2 会議でのアブストラクト締切は過ぎておりますが、御希望の方はプログラムの詳細及び参加申込み要領につきましては、直接下記までお問合せ下さい。

The Metals Society
1 Carton House Terrace
London SW1Y 5DB
U.K.

Second Topical Meeting on Fusion Reactor Materials

1. 期 日 1981 年 8 月 9 日~12 日
 2. 場 所 Seattle, Washington
 3. 共 催 The American Nuclear Society ほか
- 標記会議に関するお問い合わせは直接下記までお問い合わせ下さい。

S. M. Bruemmer,
Battelle Northwest Laboratories,
P. O. Box 999
Richmond WA 99352
U. S. A.

欧文誌 (Trans. ISIJ) への講演概要 (第100回大会) 投稿案内

本会は会員各位の研究成果の発表の一つとして、講演大会を年2回(春・秋)開催いたしております。編集委員会では当講演大会をより良くするため、ポスターセッション方式による講演の導入や、最近では欧文誌を通して広く海外からの参加を呼びかけるなど種々検討を重ねております。

ご承知の通りわが国における鉄鋼生産技術は世界の注目を集めており、その成果及び動向が最も早く把握できる手段は当春秋講演大会およびその講演概要集であります。海外においても当講演内容には非常に関心が高く、本会への講演内容に関する問い合わせは相当の数にのぼっております。

以上のことから本会編集委員会で種々検討の結果、春秋の講演を早い時期に欧文誌で海外に紹介することは大変有益であるとのことから、昭和55年1月発行の欧文誌から講演概要(英文)を掲載することに決定いたし、試みに昨春秋の講演中より英文講演概要を勧誘いたしました所、大変好評をいただきました。今100回(昭和55年10月)大会は、下記により公募いたしますので、奮ってご投稿下さいませようご案内申し上げます。

記

- I. 副原稿(コピー原稿)締切日 昭和55年10月31日(金)
(55年7月7日締切の講演原稿(和文)と同時提出も可)
- II. 原稿枚数 本会所定の原稿用紙1枚(図、表、写真を含む)
(お申し出いただければ所定原稿用紙を送付いたします)
- III. 原稿内容 原稿は講演概演(和文)の内容とまったく同じものを原則とします。やむを得ず内容が異なる場合は、改めて英文原稿の和文直訳を同封して下さい。
- IV. 執筆の仕方 執筆者がタイプされた原稿がそのまま約80%縮尺され、オフセット印刷されますので下記ご留意のうえご執筆下さるようお願いいたします。
 - 1) タイプライターはカーボンリボンを使用し(ファブリックリボンは不可)、活字は原則としてエリート(12 pitch)でsingle space(64行)、2段打ちにして下さい。
 - 2) 図、表、写真は縮尺を考慮し作成して下さい。
 - 3) 英文タイトルは講演申込用紙に記入されたものが英文校閲のうえ講演概要集に掲載されますので、そのタイトルに従って下さい。
- V. 原稿提出
 - 1) 投稿のさいは、最初に副原稿(コピー原稿)1枚をご提出下さい。そのコピー原稿により英文校閲がなされ、その結果が編集委員会より連絡されますので、そのうえで本原稿を提出願います。
 - 2) 上記締切日以降は受け付けられません。

注) 副原稿(コピー原稿)とは、執筆要領にのつとつた形式でタイプされたもの、あるいは本原稿をコピーしたものです。

注) 講演概要投稿後、投稿規程に従って Research Article として投稿されることを歓迎いたします。
- VI. 欧文誌掲載
 - 1) 掲載にあたっては英文校閲がなされますので、結果によっては英文修正を依頼することがあります。
 - 2) 欧文誌 (Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan) Vol 21 (1981), No. 1~6 に亘って掲載されます。
- VII. 原稿送付先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3階
問い合わせ先 日本鉄鋼協会編集課欧文誌係 (Tel. 03-279-6021)